

## 記念講演

写真：明科廃寺出土の軒丸瓦  
(安曇野市教育委員会所蔵)

# 「景観的見地からみた山国の寺々」

梶原 義実 氏 (名古屋大学大学院人文学研究科准教授)

## 報告 1

# 「古代地方寺院の特質 —『郡寺』と定額寺—」

荒井 秀規 氏 (藤沢市役所 郷土歴史課学芸員)

## 報告 2

# 「天狗沢瓦窯の系譜 ～瓦・窯の比較考察と寺院の立地・構造論～」

櫛原 功一 氏 (帝京大学文化財研究所研究員)

## 相互討論

〈コーディネーター〉

末木 健 氏

(山梨県考古学協会会長)

〈パネリスト：文献史の立場から〉

原 正人 氏

(駿台甲府高等学校教諭)



杉崎廃寺の伽藍 (飛騨市)  
(飛騨市教育委員会提供)



天狗沢瓦窯跡 (甲斐市)  
(甲斐市教育委員会提供)

積石塚・渡来人研究会 第四回総会・記念講演会  
—ヒト・モノ・情報の行き交う歴史空間—

2018年12月8日(土) 午後1時～5時(開場:午後0時30分)

会場：帝京大学文化財研究所 大ホール

申込不要・資料代 500円

協力：山梨県考古学協会／帝京大学文化財研究所 後援：山梨県立博物館／山梨県立考古博物館  
お問合せ：積石塚・渡来人研究会事務局 080-6724-7311 (原)



# 「積石塚・渡来人研究会」 第4回総会・記念講演会

7世紀後半、甲斐国に寺本廃寺（笛吹市春日居町）のような本格的な寺院が建てられた。山梨郡を代表する寺本廃寺に対して、巨麻郡を代表する寺院の痕跡は未だ掘めていない。

しかし、山梨県最古の瓦窯跡とみられる天狗沢瓦窯跡（甲斐市）から出土している軒丸瓦と同系統の瓦が飛騨国（岐阜県）寿楽寺廃寺（飛騨市）や信濃国（長野県）明科廃寺（安曇野市）から出土している。

このような初期寺院が白鳳期に全国に建てられたのはなぜか？また、その瓦生産・土木・建築などの諸技術はどのような人びとにより、どのように各地に広まっていったのか？

これら「山国の寺」の立地や景観にはどのような特徴があり、平安時代まで地域の拠点として存続したのはどうしてか？などについて、縦横に議論したいと思います。



寿楽寺廃寺出土瓦（飛騨市）  
（寿楽寺所蔵）



天狗沢瓦窯跡出土瓦（甲斐市）  
（甲斐市教育委員会所蔵）



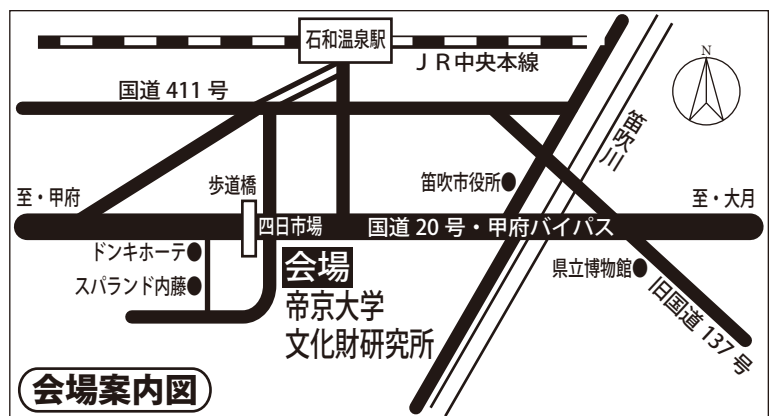
**梶原義実**（かじわら・よしみつ）氏  
1974年生まれ。滋賀県出身。京都大学大学院文学研究科博士後期課程中退。博士（文学）。京都大学埋蔵文化財研究センター助手を経て、現在、名古屋大学大学院人文学研究科准教授。専門テーマは古代寺院およびその出土瓦。著書に『国分寺瓦の研究—考古学からみた律令期生産組織の地方的展開—』（名古屋大学出版会）、『古代地方寺院の造営と景観』（吉川弘文館）など。



**荒井秀規**（あらい・ひでき）氏  
1960年生まれ。東京都出身。明治大学大学院文学研究科博士後期課程中退。明治大学、慶応義塾大学兼任講師などを経て、現在、神奈川県藤沢市役所郷土歴史課学芸員。専門は古代文献史学の土地制度史、寺院制度史、古代東国史。著書に『覚醒する<関東>』（吉川弘文館）、編著書に『古代の坂と堺』（高志書院）、『古代東アジアの道路と交通』（勉誠出版）など。



**櫛原功一**（くしはら・こういち）氏  
1961年生まれ。長野県出身。国学院大学大学院博士課程後期修了。博士（歴史学）。公益財団法人山梨文化財研究所研究室長を経て、現在、帝京大学文化財研究所講師。専門は縄文時代中期集落論、土器型式論、山岳信仰、中央アジア考古学。編著書に『食の復元—遺跡・遺物から何を読みとるか』（岩田書院）など。



会場 帝京大学文化財研究所・大ホール  
笛吹市石和町四日市場 1566-2

## 「積石塚・渡来人研究会」について

古墳時代から律令制の時代にかけて朝鮮半島などから列島に移住し定住した人びとの残した足跡とその意義を検証するため、考古学・文献史学などを軸とした総合的研究を行う新しい研究会です。講演会・研究例会・見学会などの催しに、どなたでも気軽に参加できます。